

巻 頭 言

取締役

システム部長 大 島 眞



高度情報化社会といわれる昨今我国産業情報化の進展には目覚ましいものがある。コンピュータ、通信を中心としたインフォメーション・テクノロジーの著しい進歩とその活用によって産業の効率化、ハイテク化が進み、今後も産業分野のみならず社会生活の各分野において広範かつ高度な情報化が進展するものと思われる。

我国鉄鋼業におけるコンピュータの利用は既に30年の歴史を有し、特に生産管理分野では、大量生産設備を用いて、多品種、受注生産を円滑に効率よく運用するためのシステムを逐次構築してきた。また生産プロセスではコンピュータ・コントロールの開発によって自動化のみならず高品質製品の製造を可能としてきた。しかしながら近年の急激な経済環境の変化により、コスト面における国際優位性の確保に加えて製品の高級、多品種、短納期化などサービス力の強化がますます重要となっている。これらの課題に対して当社においては、製鉄—製鋼—圧延の同期化・連続化を基軸にした販売・生産・物流分野の総合一貫システムの構築ならびに業務の効率化・高度化の全社的推進を狙いとして、昭和58年より新しい企業情報システムの開発を進めてきた。この間、コンピュータのハード、ソフトならびに通信技術など情報関連技術の進歩に支えられて5箇年にわたるシステム・リフレッシュをほぼ完了することができた。

今回、数多くの大規模システム開発を遂行する上でいくつかの重点施策を講じてきた。まず第一に、全社的にシステム開発計画の策定、調整および審議の機能、機構を強化し、着実なシステム開発を推進した。生産管理分野では設備計画および技術開発と緊密な連携をとったシステム開発プロジェクトの推進を、また経営管理等の事務分野では全社業務体系の標準化推進により複数事業所システムの共同開発、集中運用を実現した。第二に、情報システムの開発にあたってはシステム開発設計方法論の確立および開発環境の整備を推進することにより開發生産性の大幅な向上をはかった。第三に、情報の活用を推進するために全社ネットワークならびに事業所LANの構築、大規模データベースの構築、研究開発を支援するためのスーパーコンピュータの導入等々情報インフラストラクチャーの整備を強化してきた。

昭和58年秋にはソフト開発力の一層の強化と情報産業への進出を狙いとして川鉄システム開発株式会社(KSD)を設立した。KSDは当社の技術力を基盤として順調な成長を遂げ、情報サービス産業の一翼を担うべく鋭意外部への進出をはかりつつある。また、昭和61年にはシステム研究室を設立し、AIやソフトウェア・エンジニアリングなど先端技術の積極的活用を推進する体制を整備した。

昨今、より戦略的な情報システムの構築が強く叫ばれている。当社では現在構造改革を強力に進めているところであるが、同時に需要家のニーズを先取りして製品の付加価値を高め、顧客へのサービスをより向上させなければならない。このためには、巨大装置産業である鉄鋼業FMS(Flexible Manufacturing System)の確立を目指して技術開発、システ

ム開発を続けていくことが肝要である。さらに経営の多角化に向けて新しい戦略的情報システムの創造も不可欠となろう。当社情報システムの新たな展開の節目として5年にわたるシステムリフレッシュの概要を紹介すべく「システム特集号」を企画した。読者各位の御参考となれば幸いである。

末筆ながら日頃の関係各位の御指導、御協力に深謝し、今後一層の御鞭撻をお願いする次第である。